愛知県立大学
Aichi Prefectural University

愛知県政記者クラブ
名古屋教育・医療記者会、瀬戸市記者クラブ

2022 年 10 月 12 日（水）
愛知県立大学　県大総務課
担　当：大石、坂野
電　話：0561-76-8811
メール：kendai_somu@puc.aichi-pu.ac.jp

愛知県政150周年連携イベント

県政150周年と愛知県立大学
――愛知県の歴史と大学の足跡――

愛知県立大学では、今年度、愛知県政 150 周年連携イベントを企画・開催しています。
愛知県立大学に深いかかわりをもつ3名の講師をお招きし、150 年の愛知県政史を、公立大学の側面から考えます。ぜひ、お取り上げいただきますよう、よろしくお願いいたします。

講演概要	「愛知の歩み」と「郷土への愛着や誇り」に思いをはせる県政 150 周年の趣旨を愛県大として受け止め、この大学を知り尽くす元教員に、ポルトガルの協定校の教員も加わり、愛県大から世界につながる目線で、地域とともに歩む公立大学としての将来と社会的使命を考えます！
講演者	山田正浩　愛知県立大学名誉教授（歴史地理学） ジョゼ・テイシェイラ　ポルトガル・ミーニョ大学准教授（比較言語学）※ 大塚英二　愛知県立大学名誉教授（日本近世史）
日時・場所	2022 年 11 月 12 日（土）13:00～16:40（開場 12:30） 会場／愛知県立大学長久手キャンパス S201 教室
参　加 申込方法	以下の URL 又は右の二次元コードより お申込みください。 https://forms.office.com/r/E3S3JdVYMO
申込期間	2022 年 10 月 12 日（水）～11 月 10 日（木）まで
連絡先	愛知県立大学 県大総務課　坂野（さかの） メール：kendai_somu@puc.aichi-pu.ac.jp 電 話：0561-76-8811

※ポルトガル語と日本語の逐次通訳あり

愛知県立大学
Aichi Prefectural Unive sity

愛知県政１５０周年連携イベント

県政１５０周年と愛知県立大学
――愛知県の歴史と大学の足跡――

「愛知の歩み」と「郷土への愛着や誇り」に思いをはせる県政150周年の趣旨を愛県大として受け止め、この大学を知り尽くす元教員に、ポルトガルの協定校の教員も加わり、愛県大から世界につながる目線で、地域とともに歩む公立大学としての将来と社会的使命を考えます！

高田町時代から長久手時代へ
―1970年前後の学生・一般教育改革・移転計画とその展開

山田正浩　愛知県立大学名誉教授（歴史地理学）

ポルトガルの地方における社会、ことば、大学教育の特徴―ブラガとミーニョ地方から、そして日本との旧くて新しいつながり

ポルトガル語と日本語の逐次通訳あり

ジョゼ・テイシェイラ　ポルトガル・ミーニョ大学准教授（比較言語学）

愛知県政における愛知県立大学の存在

大塚英二　愛知県立大学名誉教授（日本近世史）

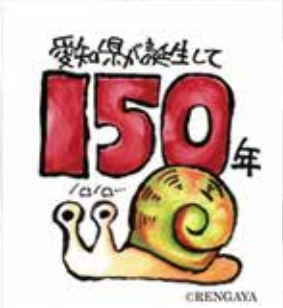
2022年11月12日（土）13：00～16：40

開場／12：30～

会場／愛知県立大学長久手キャンパスS201教室　(先着200名)

入場無料

申込フォーム



2022年は愛知県政150周年

■申込方法
下記のURL又は二次元バーコードよりお申込みください。
申込期限：令和4年11月10日（木）
URL：https://forms.office.com/r/E3S3JdVYM0

■お問い合わせ
愛知県立大学　長久手キャンパス　県大総務課
受付時間　9：00～17：00
kendai_somu@puc.aichi-pu.ac.jp
0561-76-8811

■アクセス
東部丘陵線（リニモ）「愛・地球博記念公園」駅下車徒歩5分

背景写真は旧高田キャンパス文学部棟

講演の概要

専門学校、短大、4年制女子大、共学、キャンパスの移転、法人化、大学統合、現在まで続く本学の歴史を貫くのが、「愛知県立」の名称である。その意味で、公立大学としての本学の変遷史は愛知県政史でもある。その変遷はまた、この大学が立地する地域社会だけでなく、世界にも開かれていく過程でもあった。いまや愛知県は全国で2番目に外国籍住民ーなかでもポルトガル語話者たるブラジル籍の人びとーが多い県であることはよく知られる。こうして、地域に根づき、地方から世界へと展開してきた愛県大の輪郭が、本学に深いかかわりをもつ3名の講師の味のある切り口で描かれる。150年の愛知県政史を公立大学の側面から考えるための、またとない機会である。

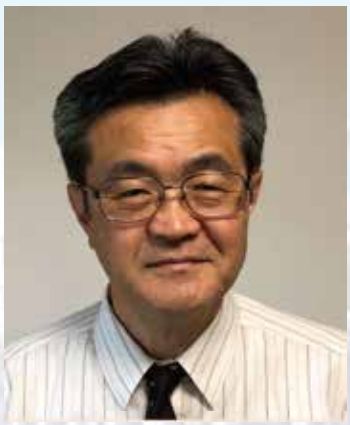
山田正浩・愛知県立大学名誉教授（歴史地理学）

＜プロフィール＞
愛知県生まれ。1968年京都大学大学院修士課程修了。金沢大学教育学部助手を経て、1971年愛知県立大学に着任。2008年定年退職後、2013年まで奈良大学文学部教授。専門は歴史地理学、朝鮮と日本の村落・都市を対象とし両者の比較に及ぶ。愛知県史編さん専門委員・自然史部会長を務める。本学では学生部長、文学部長、評議員のほか、1998年移転拡充をめぐる将来計画の委員を務める。

ジョゼ・テイシェイラ（ポルトガル・ミーニョ大学准教授）

＜プロフィール＞
ポルトガル北部地方ブラガ県アマーリッシュ出身。カトリック大学人文学部で学び、2000年にミーニョ大学にて博士号（言語科学）取得。世界のポルトガル語と話者をめぐる社会状況やポルトガル語の多様性に強い関心をもち、2015年よりミーニョ大学ポルトガル研究所長を務める。本学との学術協定の仕掛人でもあり、本学教員と職員も執筆に参加した『日本イベリア関係史ー時空をこえる16世紀から現在』（2019年にポルトガルで出版）の編集の中心を担った。また、本年3月発行の本学大学院論集（大塚英二先生退職記念号）には、「言語と文化の中にある翻訳と互換性―ポルトガル語と日本語の格言から」と題する論考を寄稿。

大塚英二・愛知県立大学名誉教授（日本近世史）



＜プロフィール＞
栃木県生まれ。1986年名古屋大学大学院博士後期課程満期退学、 1994年に同大学で博士号（歴史学）取得。1997年愛知県立大学に着任し、日本文化学部長、国際文化研究科長等を務め、2022年3月に定年退職。日本近世史の専門家として、長く愛知県内の自治体史編さんや文化財保存に専門委員として関わる一方で、2015年から4年間、大航海時代に関する大型共同研究を主宰した。2019年には『吉利支丹抄物 影印・翻刻・現代語訳』（勉誠出版）を上梓し、日本のキリシタン研究に貴重な一石を投じた。

背景写真は現在の長久手キャンパス